

---

# 少年伝記

as if

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少年伝記

### 【コード】

N0363C

### 【作者名】

as .if

### 【あらすじ】

少年に課せられた運命。運命は生を選ぶか死を選ぶか。あの青い空をもう一度見あげる為に。

## プロローグ く最期の日(前書き)

プロローグはもう少し続きます。

## プロローグ ～ 最期の日

少年は、この国で一番権威のあるといわれる その力は国王でさえ及ばぬ 老人に諭されている最中だった。

老人の口からは、とめどもなく創造主という言葉が繰り返され、少年はその言葉を別な所で理解した。

老人はその話をもう小一時間も続けていたが、少年が割合早く理解を示したので彼は結論に差し掛かった。

「要するに、君にはこの国のために、いやこの世界のために、君自身を擲ってもらいたいと言う事だ。それは私の希望ではなく、君がこの世に生を受けるときすでに決められた運命なのだよ」

少年は曇りのない瞳を老人に向け

「はい」

と一言だけ発した。

老人は満足げに、彼の徒に長い髭をさすり微笑んだ。

「よろしい」

\*\*\*

うす暗い教会の中で結局2時間以上も、いわゆる特別な説教を聞かされた少年は、思い切り背伸びをし大きなあくびを立て続けに2回して、教会の重々しい扉を開けた。

外の光はやけにまぶしく、少年は盛んに瞬きをした。

世界はばかばかしいほどに平和で、そうして彼自身の人生もまたば

かばかしい物に思えてきた。  
少年は道の小石を軽く蹴飛ばすと、どこまでも広がる青々とした牧草の中を駆け出していった。  
空は澄み、大きなゆったりとした雲の塊が、緑の波に影を落とすながら通り過ぎていく。  
風は穏やかに草原を波立たせる。

ごくごく当たり前に過ぎていく時の中で、彼自身の時間切れは近付きつつあった。

\*\*\*

風の音しか聞こえない、不気味なほど静かな夜はその日の夕暮れの後やってきた。

村の外れに一人で住む少年の家に、5人の大人たちが尋ねてきた。

少年は促されるまま、大人たちに手を引かれて、13年暮らした家に永遠の別れを告げた。

彼の真上には見事な満月が出ている。

家の前には真っ黒な自動車が、静かにエンジンを温めて少年が乗り込むのを待っている。

少年は大人たちとは別の座席に座らされ、手枷をつけられた。

車内では、大人達は一言も話さず、少年はシート of 柄を微塵も動かずに凝視していた。

窓からこぼれる月明かりは、大人たちの顔を彫刻のように浮かび上がらせる。

どれほど走ったろうか。シートの幾何学模様が236回繰り返されているところまで数えた時、車体に当たる風の向きが変わったと、

少年は不意に気付いた。  
やがて車は静かに止まる。

了解したように大人たちは車を降り、少年も一緒に降ろされた。  
聴いたこともないような風のうなりが響き渡る。荒々しく草むらを  
引つ掻き回している。

少年は風に飛ばされないようにしっかりと大人達に支えられ、世界  
の果てに連れてこられた。

崖の淵は左右に永遠に伸び、向こう側は無い。下を覗くと雲海が渦  
巻く。

風にあおられて少年の体が揺らめく。

大人たちは彼の体に、大きな石をくくりつけ、儀式の終わる前に彼  
の体が崖の下に落ちないよう配慮した。

一通り準備が済むと、大人たちは少年を残してその場を離れ、10  
メートルほどの距離を歩いて弧を描くように座った。

暫くして、もう2台自動車がやってきて、大人達の数は20人ほど  
になった。

その一人と少年は目が合ったが、それは苦痛にゆがんだ表情を浮か  
べ、すぐに視線をそらした。

その人は少年をとてかわいがってくれた。

孤児の彼を自分のことわけ隔てなく接してくれて、そしてこの日が  
来ることを少年よりも恐れた。

少年は空を見上げた。

星はまぶしく瞬き、月は冴え渡る。

耳障りな風の叫びにも、もう慣れた。

まもなくもう一台車が到着し、かの老人が姿を現した。

遣天使と呼ばれる老人が、その弱りきった右手のこぶしを天に向か

って突き上げた。

大人たちは深々と頭を下げる。

長い髭がめちやくちやに風になびいて、鬱陶しげに眉根を寄せる。その顔がおかしくて、少年は笑いをかみ殺す。

老人は咳払いをし、ありがたい古の言葉を朗々と謳いあげた。くもの糸のように舞踊る髭の様子が、余計に少年を笑わせる。

最後に老人は少年に、こう言った。

「何を誓うか」

「古の教えのままに」

大人たちはさらに深々とひれ伏す。

少年は、老人の満足そうな笑顔を見ながら、教えの一つを思い出し  
ていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0363c/>

---

少年伝記

2011年1月25日04時12分発行